

ヴァーチャル顕微鏡で病理標本をデジタル化して、世界へ学習提供する！

Readyfor サイト：<https://readyfor.jp/projects/103977>

つつみ病理診断科クリニック HP：<https://www.pathos223clinic.com/>

プロジェクト責任者：堤寛（つつみゆたか）、つつみ病理診断科クリニック院長

〒492-8342 愛知県稲沢市矢合町三吉跡 1551-1

電話：0587-96-7088, Email: @pathos223@kind.ocn.ne.jp

目標額：1,500 万円

費用の用途：ヴァーチャル顕微鏡とデータサーバーの購入費（教育目的）

プロジェクトの効果：病理標本画像の永久保存化と専門家への学習提供

プロジェクトの説明：

- ① 病理医として過去 45 年間に収集した病理診断学の全分野をカバーする人由来の病理標本（プレパラート）が 1 万症例以上、手元にある。
- ② これら貴重なガラス標本を未来に残し、だれでも活用できるようにしたい。
- ③ そのために、ヴァーチャル顕微鏡を使って病理標本をコンピュータデータ化する。
- ④ サーバーに保存されたデータに外部からアクセスすると、パソコン上で顕微鏡像が観察できる。
- ⑤ 要するに、外部からアクセス可能な病理標本ライブラリを構築し、コンピュータ画面で、顕微鏡標本を自由に観察できるようにする。
- ⑥ 結果的に、デジタル式教科書（電子教科書）が作成される。
- ⑦ 病理専門医あるいは病理専門医を目指す人材のための学習提供材料となる。顕微鏡所見を利用する臨床医にも情報提供の場となる。
- ⑧ 病理標本に付加する文字情報を英語化することにより、世界中へと情報提供できる。
- ⑨ デジタル教材を学習することで、病理診断の質が向上し、医療の質の向上に貢献できる。
- ⑩ 医療資源のデータベース化のモデルケースとなる。

ヴァーチャル顕微鏡とは：病理標本を対物レンズ 20 倍ないし 40 倍を用いてすべてスキャンし、顕微鏡画像のデータベースをつくることのできる特殊な顕微鏡です。

病理標本ライブラリ：病理診断学の全領域にわたる系統的なデータベースはまだない。

病理診断とは：生検や手術で採取された組織・臓器から顕微鏡用の染色標本を作製し、それを病理専門医が顕微鏡下で観察して病気の診断を下す。がんなどの悪性腫瘍、肝炎・腎炎や皮膚炎といった炎症性疾患、さまざまな感染症、心筋梗塞や肺塞栓症といった循環障害など、ありとあらゆる病気の最終診断を引き受けています。病理専門医は実際の標本を顕微鏡下で観察する難しい試験をクリアしています。

ぜひご理解・ご協力ください！よろしく申し上げます。